

蔵王山の火山活動解説資料（令和2年12月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

遠刈田温泉に設置している監視カメラによる観測では、丸山沢の噴気は2日に一時的に高さ100mとなりましたが、その他の期間は認められませんでした。

上山金谷に設置している監視カメラによる観測も含め、御釜付近の噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2-②③⑤）

火山性地震、火山性微動及び深部低周波地震（御釜の東から南東側の深さ20～30km付近を震源とする）は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図2-④、図4）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

○活動評価

蔵王山では、2013年以降火山活動の高まりがみられていましたが、2015年頃をピークに次第に静穏化し、現在、一連の活動は終息したとみられます。地表面の地熱活動は残るものの活発化を示す観測データはなく、静穏な状況にあると考えられますが、一時的な地震活動や噴気など表面現象の高まりがみられる可能性がありますので留意が必要です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年1月分）は令和3年2月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図1 蔵王山 山頂部の状況

- ・上図：遠刈田温泉監視カメラ（山頂の東約13km）の映像（12月2日）です。
- ・下図：上山金谷監視カメラ（山頂の西約13km）の映像（12月5日）です。
- ・注1）御釜から噴気が噴出した場合、高さ200m以上のときに遠刈田温泉監視カメラ及び上山金谷監視カメラで観測されます。監視カメラからは直接見えませんが、赤破線が御釜の位置を示します。

丸山沢からの噴気の高さは2日に一時的に100mとなりましたが、その他の期間は噴気は認められませんでした。

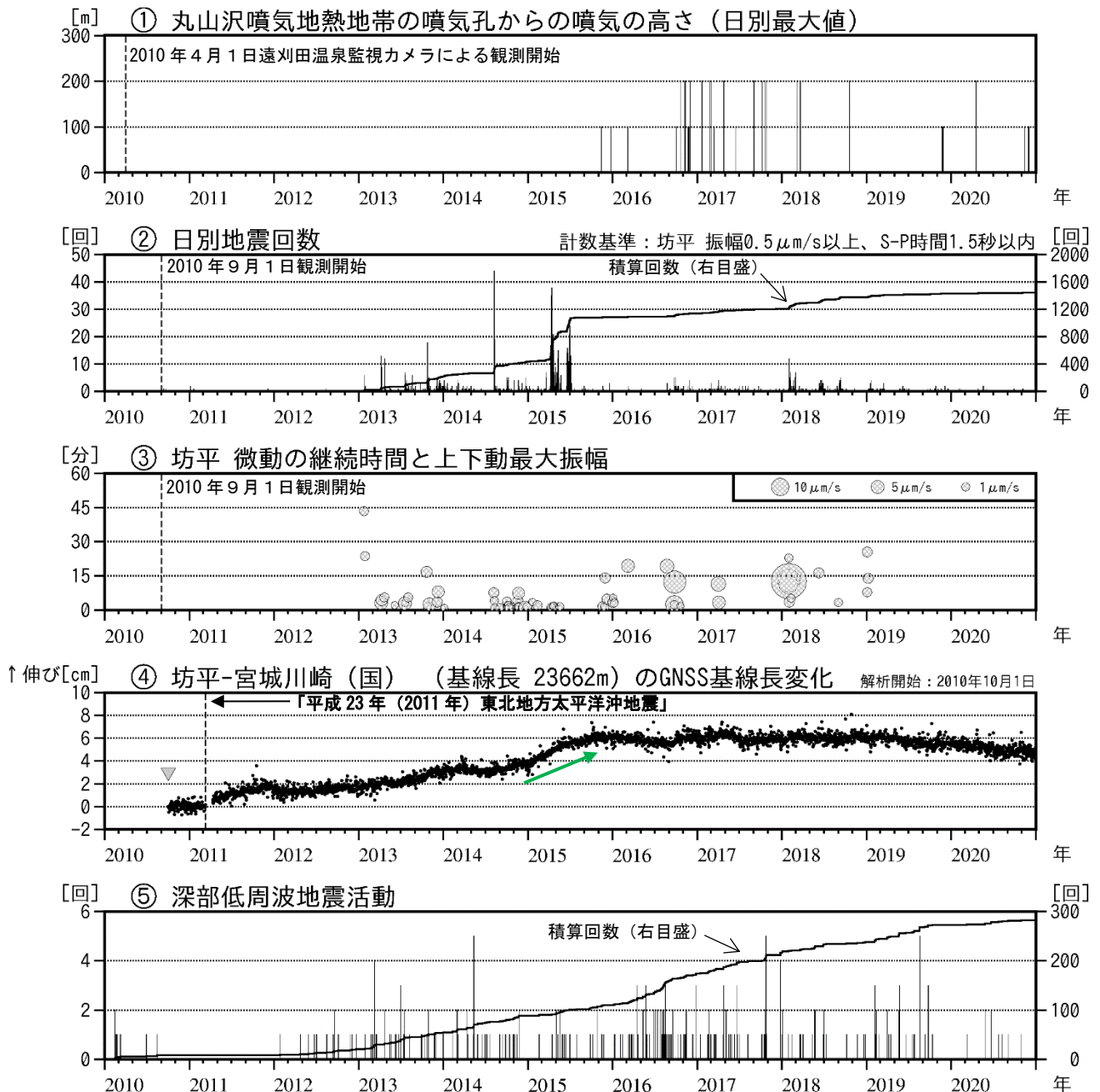


図2 蔵王山 火山活動経過図（2010年4月～2020年12月）

- ④の空白部分は欠測を表しています。
- ①監視カメラで噴気（高さ100m以上）が観測される頻度は、2018年頃から減少しています。
- ②、③地震、微動活動は2015年をピークに、一時的な高まりを見せつつも低下、2019年以降は静穏な状態で推移しています。
- ④GNSS（図4基線①に対応）にて、2014年から2015年の火山活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されましたが、それ以降停滞状態にあります。
- ⑤深部低周波地震（御釜の東から南東側の深さ20～30km付近を震源とする）は、他の観測データに先行して2012年頃よりやや多い状態で経過していましたが、2019年11月以降は少ない状態で経過しています。

各観測データに特段の変化はみられず、静穏な状態で推移しています。

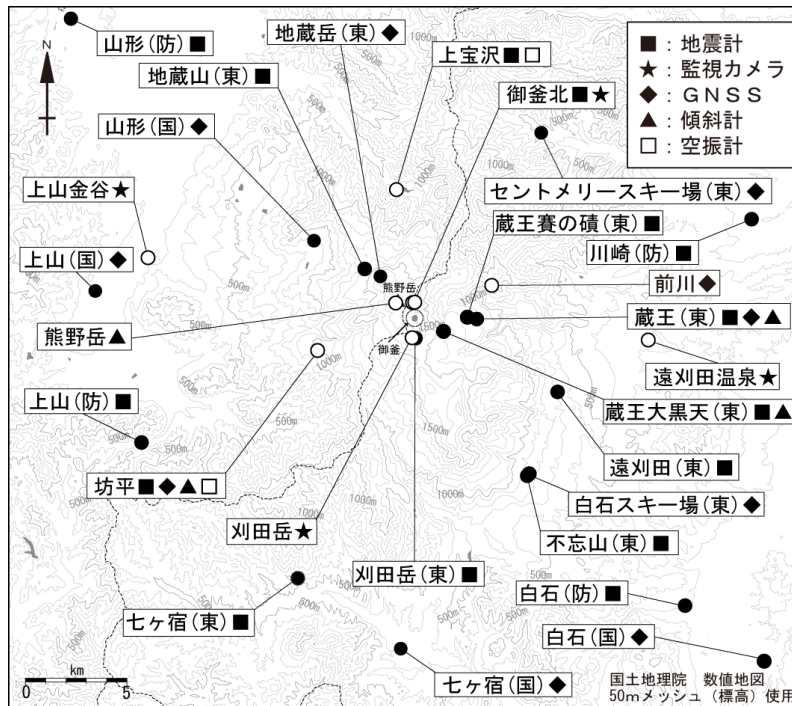


図3 蔵王山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学

（防）：防災科学技術研究所

※刈田岳：冬期運用休止中。

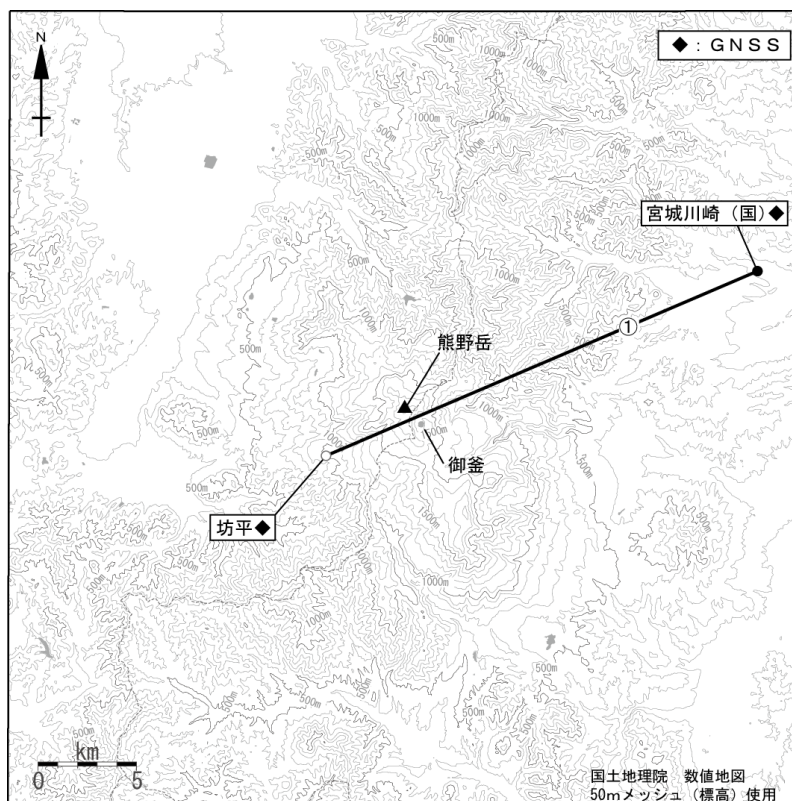


図4 蔵王山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院